

オンラインでの「グループワーク」に関する実践報告 —Keynoteで多言語動作動詞辞書を作成する—

紅 粉 芳 恵[†]・山 本 晃 輔^{††}

An Online “Group Work” Practicum: Creating a Multilingual Action Verb Dictionary in Keynote

BENIKO Yoshie, YAMAMOTO Kohsuke

Abstract

We examined how students created a multilingual action verb dictionary using the sharing function of Keynote. The class sampled was “Research Literacy 2” (a study skills seminar for 2nd year students) offered in the second semester of 2020. The twenty-three students enrolled in the class conducted a literature review and created a verb dictionary. In the last class, they were asked to evaluate their results and complete a questionnaire, submitted on Google Forms. Overall, students indicated “group work” was ‘interesting’ and ‘enjoyable,’ ‘useful,’ ‘achieved goals,’ ‘not boring,’ able to ‘take it seriously,’ they tried ‘not to be absent,’ made efforts to ‘improve group atmosphere,’ and able to fully ‘understand group work content.’ In addition, a significant correlation was confirmed between the level of interest in group work and the enjoyment of group work. We suggest the importance of “group work” in online classes, and the necessity of taking advantage of this learning format in both online and face-to-face class situations.

keywords: online, group work, Keynote, ICT literacy

† 大阪産業大学 国際学部 国際学科 教授

†† 大阪産業大学 国際学部 国際学科 准教授

草 稿 提 出 日 10月27日

最 終 原 稿 提 出 日 10月30日

キーワード：オンライン，グループワーク，Keynote，ICTリテラシー

1. はじめに

国際学部の2年次前期・後期に開講している「リサーチ・リテラシ演習1/2」は、「5つの柱（読み書き，調べる，整理する，議論する，発表する）に基づくスタディスキルの向上を目的とする。基本的に，(1)文献講読，(2)調査・研究，(3)プレゼンテーションの3つの要素を授業の構成要素として，それぞれの要素で必要となるスキルの習熟もはかる」ことを目的とし，担当教員の専門分野・研究分野も反映しながら授業を行う科目である。

本稿は，第1著者による2018年～2020年の3年間にわたる「リサーチ・リテラシ演習2」における実践報告である。専門は中国語であるが，21世紀を生きる若者に必要なものは，「コミュニケーション力」「語学力」「ICTリテラシー」だと思つねづね考えている。そこで上述の授業目的に加えて，学生に「ICTリテラシー」を付けてもらうために，「Keynoteで多言語動作動詞辞書を作成する」というテーマで授業を開講してきた。

2018年度，2019年度はグループごとに手の動作に関する動詞を複数選択し，iPadを1台貸与して作成を進め，最終授業日にプレゼンテーションを行い，全員が各グループの作成した辞書を操作して，どのグループの辞書が使いやすいかを選ぶという形式で授業を行った。2020年度はCOVID-19のためオンライン授業となり，授業形態の変更を余儀なくされた。そのような中でも，本授業ではオンラインの状況に合わせた独自のグループワークを活用した授業実践を行った。以下ではその際の履修者，授業構成等について詳細に記述する。また，本授業ではオンラインでのグループワークという新たな試みの成果や問題点を明らかにするために，第2著者と共同し，授業の満足度等に関するアンケートを実施した。その結果を考察することにより，COVID-19状況下におけるオンライン教育のあり方について考えたい。

2. 授業の記録

2.1 履修者について

国際学部は一学年およそ100人という小さな所帯ではあるが，この授業を履修した学生同士は所属コースや履修科目の違いから顔と名前が一致するとは限らない。また中国語コースの学生は，4-5セメに中国留学に行くため¹⁾帰国後の6セメでこの授業を履修するように指導していることもあり，2-3年生混合クラスとなっている。そのような事情

1) 2018P生は，COVID-19のため，残念ながら留学は4セメだけとなり，2020年1月末に全員中国から帰国した。

もあり、毎年初回の授業は活気に欠けるのだが、2020年度はそれに加えてオンライン授業ということで、うまくグループワークが行えるのか非常に不安な幕開けとなった。

2020度の履修者23名のコースの内訳は、中国語コース12名、国際コース9名、英語コース1名、日本語コース1名で、うち中国人留学生が2名いた。

後期開始時点で、実家の長野県からオンライン授業を受ける学生が1名、日本に入国していない中国人留学生が1名おり、中国ではGoogle Meetが使用できないためZoomを使用し、グループワークはブレイクアウトルーム機能を使って実施することにした。

グループは3年生をリーダーとし、履修第二外国語のバランスが良くなるように筆者が決めたが、2グループが中国語履修者ばかりとなってしまった。

表1. 各グループの辞書のテーマと履修第二外国語の内訳

	人数	テーマ	履修第二外国語
A	3人 (1)	日中英辞典(歩く, 飛ぶ, 蹴る)	中国語(3)
B	4人 (1)	様々な「とる」について	中国語(2), 仏語(1), 日本語(1)
C	4人 (2)	多言語辞書～料理に関する動詞～ (切る, 焼く)	中国語(3), 朝鮮語(1)
D	4人 (1)	Action Verb Dictionary	中国語(3), 仏語(1)
E	4人 (1)	旅行で役立つ動詞 (食べる, 買う, 行く)	中国語(1), 仏語(1), 朝鮮語(1), 日本語(1)
F	4人 (1)	日中同音異義語辞典 (走, 工作, 回, 等)	中国語(4)

*人数欄()内の数字は、3年生の人数。

2.2 授業構成

90分の授業でメリハリをつけるために、2つのタスクで授業を構成した。前半のタスクは読解力を養うための文献講読、後半のタスクは調査・研究によって多言語動作動詞辞書を作成するタスクである。

筆者が担当する科目ではその日の授業の「振り返り」を提出させているが、国語力の低下のために簡単な文章であってもきちんと書けない学生が年々増えているように感じる。前半のタスクとして、『知的戦闘力を高める独学の技法』を読み、要約をさせることにした。

まずは何人かに音読してもらい、グループに分かれてリーダーの指示に従って分担された箇所を要約、グループの代表が発表し、クラス全体で検討するという流れである。この共同作業に使用したアプリはGoogle Jamboardである。Google Jamboardはいわばオンライン上のホワイトボードで、どのOSからもアクセスでき、Web上の様々な素材を取り込むことができるため、ブレインストーミングやアイデア出しに便利なツールである。ページを増やすことが可能で、毎回の要約の記録、辞書作成のアイデア、授業の「振り返り」をGoogle Jamboardに残すように指示した。

各グループの要約を全体でシェアすることにより、同じ素材に対して読解力のある学生はどこに着目して要約をしているかが可視化される。「振り返り」には、要約を苦手とする学生がクラスメイトのそれを見て、要約のコツが分かってきたと書いていた。

15回の授業構成は以下の通りである。

表2. 15回の授業構成

第1回	オリエンテーション ・自己紹介 ・過去2年の成果物を見せて、どのようなものを作成するのかをイメージさせる ・ブレイクアウトルームに分かれて、どのような多言語動作動詞辞書を作成するか相談
第2回	前半：『知的戦闘力を高める独学の技法』の輪読と グループごとに内容を要約し、全体でシェア 後半：どのような多言語動作動詞辞書を作成するか相談
第3回	外部講師によるKeynoteのワークショップ
第4回～ 第14回	前半：『知的戦闘力を高める独学の技法』の輪読と グループごとに内容を要約し、全体でシェア 後半：多言語動作動詞辞書作成のためのグループワーク
第15回	成果物のプレゼンテーションとアンケート

2.3 Keynoteのワークショップ

Keynoteは、Appleが開発しているmacOS/iOS/iPad OSに標準装備されているプレゼンテーションソフトウェアで、Microsoft Power Pointと同様の機能があるが、インターフェイスがシンプルで直感的に操作できるので、使い方を覚えておくとは非常に便利なアプリである。このアプリを使って辞書を作成すれば、写真・動画・音声・URLの貼り付けなど、紙辞書にはない機能を持たせることができる。学生の9割近くがiPhoneを使用しているが、ほとんどの学生はKeynoteを使ったことがない。そのため、2020年度も第3回目の授

業（2020/10/14）で外部講師²⁾を招いて、Keynoteの基本的な操作と過去2年間の経験をもとに、辞書作成に使える機能をオンラインで講義していただいた³⁾。オンラインではあるが、講師の丁寧な説明で全員が基本操作を修得することができた。

2.4 教員の役割

この授業での筆者の立ち位置は、「教える」のではなく、各グループのルームに入り、進捗状況を確認し、問題点があればそれに関するヒントを出し、グループ内で解決できなければクラス全体でシェアして、解決に導くというファシリテーターである。

筆者は一定以上のICTリテラシーを有していると思うが、学生には2020年度のこの授業の最大の問題点は以下であることを提議していた。すなわち、過去2年の対面授業であれば各自が作ったコンテンツをAirDropで受け渡しをして一つにまとめあげることができたが、今年度はオンライン授業のため、コンテンツをどのように一つの辞書としてまとめあげるのが最大の課題だということである。

7回目（2020/11/11）の授業時に、Dグループのルームを訪問し、進捗状況を確認したところKeynoteにはメンバーが作成した素材が統合されていた。リーダーの学生がKeynoteの共有方法を調べて、メンバー内で設定したということであった。翌週の授業時にその学生に他のグループのルームに入ってもらい、共有方法を伝授してもらい、最大の問題は無事解決した。筆者がこの授業で目標としていた「教えない授業」ができたということである。

3. アンケート分析と学生の感想

最終日15回目の授業では、各グループが作成した辞書のプレゼンテーションを行い、Googleフォームで成果物の評価と授業に対するアンケートを実施した。アンケート内容を最終ページに添付しておく。なお、アンケートの内容について、第1著者が項目を考えたのち、第2著者がコメントを行い、最終的に合議のうえ項目や表現を決定した。以下の記述統計、データ解析、結果の整理については第2著者が中心に行い、その考察については2名の著者による協議を通して行われた。

2) 講師の住ノ江修氏は、一般社団法人センセイワークのメンバーで、この団体はiPadからプログラミング教育、Web会議システム活用まで、教育現場でのICT活用をサポートするもので、筆者も会員として、様々なICT情報を得ている。

<https://www.senseiwork.com/>

3) Android携帯の学生が2名いたので、事前にiPadを貸与した。

各質問項目の平均値およびSDを表3に示す。全体的に、学生はグループワークへの関心が高く、楽しみであり、自分にとって役に立った、目標を達成できた、退屈ではなかった、真剣に取り組めた、欠席しないようにした、グループ内の雰囲気をよくする努力をした、グループワークの内容を十分理解できたと判断していた。また、自宅でも積極的に課題を作成し、課題の作成に貢献できた、機器類を使いこなせた、正しい情報を探ることができた、情報セキュリティー、知識が備わっていたと回答する傾向が高かった。機器類の操作に関して、Keynoteの操作は理解できた、Keynoteを今後もプレゼンなどで使用したい、Jamboardの操作は理解できたと回答する傾向が高かった。「今後のゼミ、卒論研究に便利なAppを積極的に使用したいと思いますか。」という問いについては肯定的な回答パターンが得られた。さらに、この授業の満足度は5点中4.43と高かった。

表3. 質問項目の平均値およびSD表

質問項目	平均値	標準偏差
グループワークに関心がある。	4.09	0.73
グループワークが楽しみだった。	3.65	0.89
グループワークは自分にとって役に立った。	4.43	0.73
グループワークの目標を達成できた。	4.09	0.79
グループワークは退屈だった。	1.74	0.96
グループワークに真剣に取り組めた。	4.30	0.88
グループワークには欠席しないようにした。	4.30	0.93
グループ内の雰囲気を良くする努力をした。	4.04	0.93
グループワークの内容を十分理解できた。	4.30	0.82
自宅でも積極的に課題を作成した。	3.96	0.98
課題の作成に貢献できた。	4.04	0.88
機器類を使いこなせる。	3.48	1.04
正しい情報を探ることができる。	3.96	0.71
情報セキュリティー、知識が備わっている。	3.39	0.94
Keynoteの操作は理解できましたか。	4.13	0.82
Keynoteを今後もプレゼンなどで使用したいですか。	4.13	0.92
JamBoardの操作は理解できましたか。	4.26	0.69
今後のゼミ、卒論研究に便利なAppを積極的に使用したいと思いますか。	4.30	0.82
この授業の満足度は？	4.43	0.59

各質問項目間の関連性を検討するために、Pearsonの相関分析を行った。分析にはIBM SPSS Statistics Ver.28を使用した。結果を表4に示す。「グループワークに関心がある。」について、「グループワークが楽しみだった。」、「情報セキュリティー、知識が備わってい

表 4. 各質問項目間の相関係数 (Pearson)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲																				
①グループワークに関心がある。	1																																						
②グループワークが楽しかった。	.51**	1																																					
③グループワークは自分にとって役に立った。	.27	.39	1																																				
④グループワークの目標を達成できた。	.14	.24	.40	1																																			
⑤グループワークは退屈だった。	-.10	-.11	-.48*	-.74**	1																																		
⑥グループワークに真剣に取り組めた。	.31	.14	.28	.42*	-.39	1																																	
⑦グループワークには欠席しないようにした。	.23	.08	.67**	.21	-.37	.50*	1																																
⑧グループ内の雰囲気をよくする努力をした。	.40	.35	.51*	.67**	-.60**	.65**	.35	1																															
⑨グループワークの内容を十分理解できた。	.33	.28	.68**	.66**	-.58**	.43*	.59**	.70**	1																														
⑩自宅でも積極的に課題を作成した。	.32	.35	.35	.59**	-.54**	.76**	.47*	.65**	.58**	1																													
⑪課題の作成に貢献できた。	.28	.14	.25	.45*	-.58**	.63**	.37	.72**	.30	.64**	1																												
⑫機器類を使いこなせる。	.24	-.01	.01	-.29	.09	-.02	.03	-.02	-.07	.11	.28	1																											
⑬正しい情報を探ることができる。	.27	.34	.48*	.33	-.49*	.39	.23	.56**	.42*	.53*	.52*	.40	1																										
⑭情報セキュリティ、知識が備わっている。	.61**	.28	.14	-.11	.07	.29	.07	.19	.13	.27	.25	.64**	.37	1																									
⑮Keynoteの操作は理解できましたか。	.28	.44*	.44*	.05	-.13	.07	.19	.29	.21	.12	.31	.30	.41	.23	1																								
⑯Keynoteを今後もプレゼンなどで使用したいですか。	.45*	-.05	.39	.17	-.32	.17	.59**	.26	.37	.06	.39	.27	.15	.15	.34	1																							
⑰IamBoardの操作は理解できましたか。	.31	.23	.67**	.04	-.24	.24	.51*	.41	.42*	.22	.36	.39	.68**	.33	.67**	.52*	1																						
⑱今後のゼミ、卒業研究に便利なappを積極的に使用したいと思いますか。	.48*	.53**	.68**	.45*	-.41	.43*	.35	.52*	.60**	.53**	.23	.09	.65**	.31	.48*	.25	.50*	1																					
⑲この授業の満足度は？	.33	.13	.39	.11	-.19	.00	.33	.13	.37	.03	.14	.31	.38	.25	.63**	.56**	.72**	.28	1																				

※ **p<.01, *p<.05

る。], 「Keynoteを今後もプレゼンなどで使用したいですか。], 「今後のゼミ, 卒論研究に便利なAppを積極的に使用したいと思いますか。」との間に有意な相関関係が確認された。すなわち, グループワークに関心があるほど, グループワークが楽しみであり, 情報セキュリティ, 知識が備わっており, Keynoteや便利なAppを今後もゼミ, 卒論研究で積極的に使用したいと考えていることがわかった。「グループワークが楽しみだった。」において, 「Keynoteの操作は理解できましたか。], 「今後のゼミ, 卒論研究に便利なAppを積極的に使用したいと思いますか。」との間に有意な相関関係が確認された。すなわち, グループワークが楽しみであるほど, Keynoteの操作を理解しており, 今後のゼミ, 卒論研究に便利なAppを積極的に使用したいと考えていることが示された。

各グループのプレゼンテーションを聞いての辞書に対する評価は以下の通りである。

評価が一番高かったEグループのテーマは、『旅行で役立つ動詞(食べる, 買う, 行く)』。メンバーが履修している第二外国語が中国語, フランス語, 朝鮮語, 日本語とバランスが取れており, スライドの背景に各国(中国, フランス, 韓国, イギリス)の観光スポットの写真を入れるなどデザインにも凝っていた。また単語だけでなく, その単語を使った例文の音声も聞けるようにしていた点が高評価につながったようだ。

表5. 各グループの辞書に対する評価

	辞書のテーマ	辞書の内容	辞書のデザイン	プレゼン	ベスト辞書
A	2	3	3	2	1
B	4	4	2	1	2
C	5	7	3	10	7
D	0	2	2	0	1
E	9	5	11	6	10
F	3	2	2	4	2

以下に履修者全員の感想をあげておく(コメントは原文のまま掲載)。

- ・パソコン作業は大変でしたがKeynoteなど様々なアプリを使ったので楽しかったです!
- ・勉強になりました。
- ・はじめてのオンライングループワークだったので最初はかなりやりにくかったが, リーダーが率先して進行してくれたのでスムーズにグループワークができた。
- ・パソコンを使うことは難しくなかったが, 自分の知識もつけることができたのでとても良かったです。

- ・最初はオンラインでグループの人たちとコミュニケーションをうまく取れるか心配で、Keynoteもうまく使えるか不安でしたが、グループの人たちとうまく協力できたと思いました。
- ・Keynoteを利用してのグループワークは難しかったがやりがいを感じられるものだった。
- ・グループワークが多く、グループのメンバーと協力して一つの作品を作るのが良かったです。
- ・グループの人と交流は楽しいです。
- ・要約はとても苦手ですいつも先生に手直しして頂きました。これから3年生になりゼミなどで必要になって来ると思うので頑張りたいと思います。
- ・クラスメートと先生はとても優しくて、いろいろ助けてくれた。ほんとにありがとうございます。この授業まではKeynoteを使ったことがない、今Keynoteの使い方も上手になって、とても便利なappと思う。
- ・苦手な共同作業もしっかり出来た。
- ・今回は授業がオンラインで実際に集まってやることができなかったのでアイデアを共有するのが少し難しかったけど、協力して良いものを作れたと思います。
- ・この授業でFグループのリーダーをやることになったというのは自分にとって非常にいい経験だったと思いました。
- ・全ての授業がオンラインになり、みんなとも1度も会わずに授業が終わってしまっても残念でしたが、グループワークもオンラインで行うことができるという、新しい方法を見つけたり、体験できてとても新鮮でした。
- ・とても楽しく班活動させていただきました。
- ・ほぼ全てオンラインでグループワークという挑戦でしたがしっかりとタスクを明確にしてコミュニケーションを十分に取ればオフラインと変わらない成果を出せることを知ることができました。普段関わらない他学年の人たちと関わる機会ができてよかったと感じています。Keynoteの使い方を知るきっかけにもなりこの機会を生かして今後も使っていきたいと思いました。
- ・これほど濃いグループワークは初めてだったので緊張しましたが、楽しく取り組む事ができました。またKeynoteやjam boardの使い方を学ぶことができ、プレゼンなどの際に積極的に使ってみようと思いました。
- ・初めはオンラインでディスカッションに慣れていなくて、戸惑いましたが、慣れてくるにつれて楽しくなってきた、何より顔馴染みが多いので楽しく且つ気楽に発言などができて良かったかなと思いました。

- ・実際に参加してみて、グループワークの難しさも感じましたが、最終的にはなんとか乗り越えられたと思うのでよかったです。これからも、Keynoteを使いこなしていきたいと思いました。
- ・オンラインで行われたのもあり、なかなか難しかったとは思いますが、なんとか対面授業と遜色なく授業を進めていただいたと思います。
- ・私のグループは中国語コースの人が多くて、××くんだけがフランス語だったので、孤立してしまうんじゃないかとみんなで発言できるような空気をつくるのが私の役割かなと思い、話を振ったりするように心がけました。だけどみんなで意見を言い合うのがあまりできなくて、私自身も思っていたことが言えなかったりしたので、またグループワークをする機会があれば、どんどん話を進めていくことも大切だけど、自分の意見も言って他の人の意見もちゃんと聞いてみんなで協力して進めていけるようにしたいなと思えたので、良い勉強になりました。
- ・共同で1つのものを作り上げる大変さを知ることができた。良い経験になった。
- ・一言で言えばこの授業はすごく私のためになるものでした。グループワークが多かったこと、そのグループワークでリーダーになったこと、要約の練習をする機会があったこと、ICTを使う授業であったことからそう思いました。今挙げたものは私が苦手なことや経験がないことだったので私のためになる授業だと思いました。リーダーはどう動いたらいいのか、グループワークを円滑に進めるにはどうしたらいいのかなどを考えながらすることができ、この授業を受ける前より私は成長できたと思います。要約も前より、筆者が一番言いたいことを汲み取れるようになったと思いました。私が今まで受けてきた授業ではICTを使うものはあまりなかったので、機械に強くない私には学ぶ機会があつてとてもよかったです。

4. おわりに

2020年度は突然のオンライン授業開始で、この授業は後期開講であったため、筆者自身、半期のオンライン授業の経験があつたとはいえ、グループワークが果たして上手くできるのかと思ひながらの授業であった。学生のアンケートを見てもオンラインでのグループワークに不安を持っていたことが分かる。両者の不安とともにスタートした授業は、一人のICTリテラシーの高い学生が最大の課題であったデータ共有方法を調べ出してくれたお陰でクラス全員にシェアすることができ解決した。2018-2019年度は、各グループにiPadを1台貸与して作業をしていたため、iPadを触っていない時に何をすれば良いのかを見つけ出すことができない学生は手持ち無沙汰の状態であった。しかし、今回はデータ共

有ができたお陰で、グループ全員が同時に作業をすることが可能となった。これはオンライン授業であったための利点であるといえる。この授業を通して、オンラインでも対面授業と遜色のないグループワークが可能であると分かったことは、筆者にとって大きな収穫であった。

COVID-19により大学教育は、従来の対面授業に加えてオンライン授業という新たなツールを得た。人間とウイルスとの戦いは長期間にわたるであろうから、この2つの授業形態のそれぞれの長所を上手く利用して授業を進めていくことが必要である。いずれにせよ我々教員は、常に教授スキルをアップデートするということを肝に銘じておかなければならないだろう。

参考文献

山口周 2017『知的戦闘力を高める独学の技法』ダイヤモンド社

附録

リサーチ・リテラシ演習2 アンケート

オンライン上で辞書作りをするということで、一体どうなるかと思いましたが、皆さんの協力のお陰で15回の授業を完走することができました。

記録として残しておきたいので、以下の質問に回答をお願いします。

すべての項目は統計的に処理され、個人が特定されることは一切ありません。また、個人情報取扱いには最大限配慮し、研究終了後は皆さんの回答が他の誰かに見られないように、すみやかに処分します。提出をもって調査への参加協力を同意したものとさせていただきます。ご協力のほど、宜しく願いいたします。

グループワークについて

(1)グループワークに関心がある。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常にそう思う

(2)グループワークが楽しみだった。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常にそう思う

(3)グループワークは自分にとって役に立った。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常にそう思う

(4)グループワークの目標を達成できた。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(5)グループワークは退屈だった。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(6)グループワークに真剣に取り組めた。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(7)グループワークには欠席しないようにした。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(8)グループ内の雰囲気をよくする努力をした。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(9)グループワークの内容を十分理解できた。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(10)自宅でも積極的に課題を作成した。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(11)課題の作成に貢献できた。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(12)グループワークの良い点はなんですか。

(13)グループワークの苦手な点はなんですか。

(14)オンラインでのグループワークはどうでしたか。

ICTリテラシーについて

(1)機器類を使いこなせる。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(2)正しい情報を探することができる。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(3)情報セキュリティー、知識が備わっている。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(4)Keynoteの操作は理解できましたか。

全く理解できなかった 1 2 3 4 5 十分に理解できた

(5)Keynoteを今後もプレゼンなどで使用したいですか。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常に思う

(6)Jamboardの操作は理解できましたか。

全く理解できなかった 1 2 3 4 5 十分に理解できた

(7)今後のゼミ，卒論研究に便利なAppを積極的に使用したいと思いますか。

全く思わない 1 2 3 4 5 非常にそう思う

成果物の評価について

(1)以下の項目について1番良かったグループをチェックしてください。

- ・ 辞書のテーマ A B C D E F
- ・ 辞書の内容 A B C D E F
- ・ 辞書のデザイン A B C D E F
- ・ プレゼン A B C D E F

(2)ベスト作品のグループ名を記入し，その理由を書いてください。

授業について

(1)この授業の満足度は？

不満 1 2 3 4 5 非常に満足

(2)この授業の感想を書いてください。